

2011 年度

授業についての 満足度調査

ASSESSMENT OF STUDENT SATISFACTION

The Student Satisfaction Survey is a tool to improve the quality of students life and their learning through measurement of their satisfaction with courses they have taken.

Shjonawate Gakuen Junior College

満足度調査について

2011年度の満足度調査は例年と同じく年初1月に3学科の1、2年次生を対象に実施した。2010年度と同様に調査手段は主に携帯電話、補完的に学内のパソコンとした。調査結果についても、2010年度と同じ体裁でとりまとめを行った。

2009年度、2010年度、2011年度の3年度分のデータがすべて揃い、入学年度別での比較、また同一入学年度でも1年次と2年次間の比較が行えることとなった。繰り返しとはなるが、本満足度調査は個々の授業毎の満足度を調査するものではなく、学科毎に授業全体についての満足度を調査するもので、これと合わせて「自分自身についての授業取り組みについての自己評価」、「学習成果についての自己評価」も調査対象とし、最終的に学生生活全体に関する満足度も問う形としている。

2010年度と同じくグラフの形式で視覚的に結果を把握できる体裁とし、上記の3項目ごとにFD委員会のコメントを付し、その上で各学科長のコメントを掲載しているので、本報告書を是非ご一読頂きたい。

尚、今回の調査については、学生の回答率が例年より総じて低いのが特徴で（冒頭の調査目的等について記載したページをご参照）、この点については個々の授業評価アンケートでも近時見られる傾向で、その原因と意味合いについては簡単に結論は出せないものの、調査結果を分析するにあたって留意すべき事柄であり、ここに付言するものである。

また、本年度の調査結果については、費用や手間も勘案し、冊子の配布に替えてファイル形式での配信（UNIPAでの掲示）とさせて頂くこととした。悪しからずご了承頂きたい。

FD委員長

奥田 純

調査目的

1. 授業への満足度を測定する。
2. 学生の授業への取り組みについて自己評価を測定する。
3. 学習の成果について満足度を評定する。

以上の3点を調査することにより、各学科と学年において、満足度が充足できている点とできていない点を明確化し、翌年度の授業改善への一助とする。

調査期間

2012年1月下旬

調査回答者数	2011年度入学生	2010年度入学生
保育学科	44	62
ライフデザイン総合学科	59	34
介護福祉学科	18	18

調査項目

授業への満足度を測定する7項目、学生の授業への取り組み姿勢を測定する5項目、学習の成果について学生の満足度を測定する4項目を使用した。
評定は、“満足～不満”、“そう思う～そう思わない”の5段階で評定を求めた(調査項目は、結果を参照)。

調査方法

必修授業終了後や試験終了後の時間を利用して集団で実施した。またライフデザイン総合学科の2年生に関しては、時間割上全員が一斉に集まる機会がなかったため、受講者数が多い授業を選んで実施した。さらにUNIPAを通じて全学生にアンケートへの協力を求めた。尚、アンケートは従来と同じく無記名で実施した。

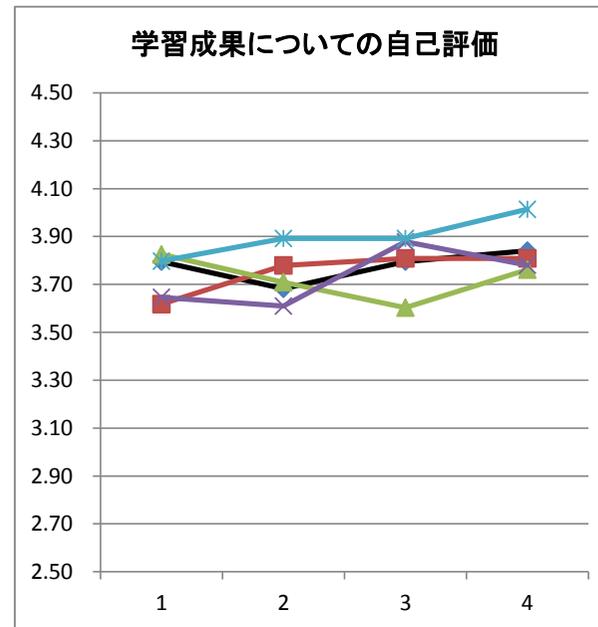
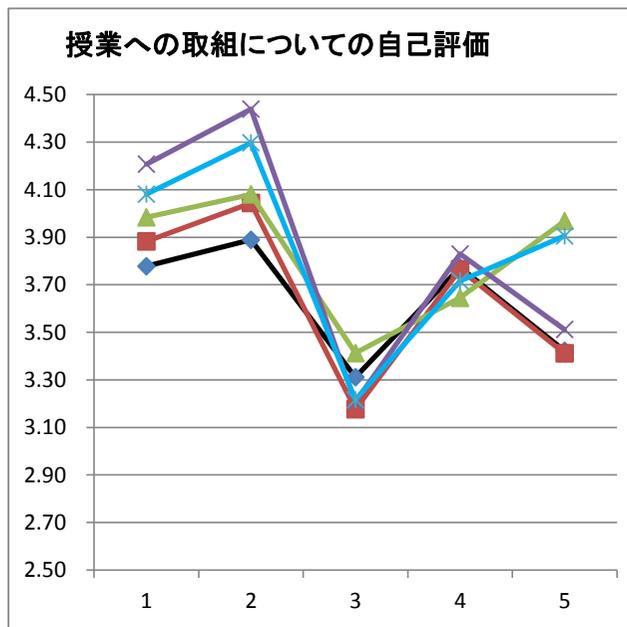
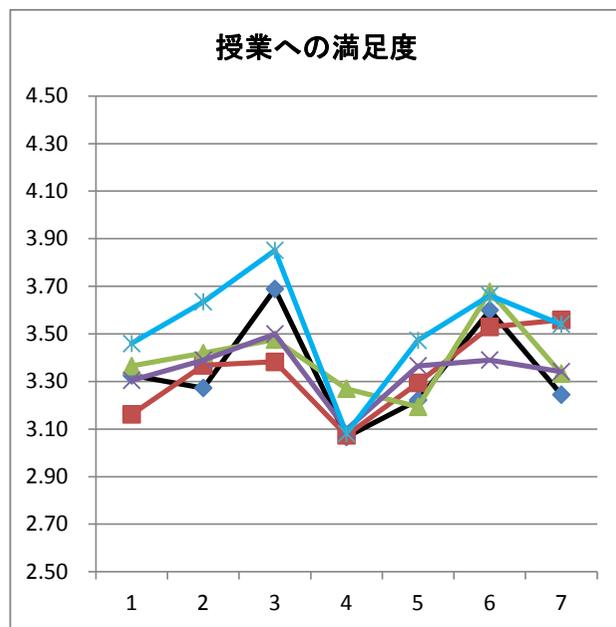
結果のデータ処理

“満足～不満”、“そう思う～そう思わない”をそれぞれ“5～1”と得点化し、各項目の評定値の平均値を学科および学年ごとに算出した。

保育学科 満足度調査結果		2011年度	2010年度	2009年度		
		入学生	入学生	入学生	入学生	
調査対象者数		1年次	1年次	2年次	1年次	2年次
		44	68	62	82	74
項目番号	本学での授業に関する各項目について、あなたの満足度をお答え下さい。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)	実施時期				
		2011年度	2010年度	2011年度	2009年度	2010年度
1	授業内容のわかりやすさ	3.33	3.16	3.37	3.30	3.46
2	授業の質(短大生として満足できる内容であったか)	3.27	3.37	3.42	3.39	3.64
3	教員とのコミュニケーション(質問への応答、学習や課題への助言など)	3.69	3.38	3.48	3.50	3.85
4	授業の人為的環境(迷惑な授業態度や私語への注意・座席への配慮など)	3.07	3.07	3.27	3.10	3.08
5	授業の物理的環境(教室のサイズ・施設・設備の充実度など)	3.22	3.29	3.19	3.37	3.47
6	将来のキャリア(就職など)計画に対する授業内容の有効性	3.60	3.53	3.68	3.39	3.66
7	教育課程(カリキュラム)の充実度(受講したい授業科目が多く開講されているか)	3.24	3.56	3.33	3.34	3.54
平均		3.35	3.34	3.39	3.34	3.53
項目番号	本学での授業への取り組みについてあなた自身を自己評価してください。 (1:そう思う 2: ややそう思う 3:どちらともいえない 4:あまりそう思わない 5:そう思わない)	実施時期				
		2011年度	2010年度	2011年度	2009年度	2010年度
1	授業には、よく出席した	3.78	3.88	3.98	4.21	4.08
2	授業には遅刻しないように気をつけた	3.89	4.04	4.08	4.44	4.30
3	授業中は居眠りや私語などせず、授業に集中した	3.31	3.18	3.41	3.21	3.22
4	授業時間外の課題には真剣に取り組んだ	3.77	3.76	3.65	3.83	3.72
5	試験勉強には真剣に取り組んだ	3.42	3.41	3.97	3.51	3.91
平均		3.63	3.66	3.82	3.84	3.84
項目番号	あなたは、本学での2年間でどの程度の学習成果が身についたと思いますか。自己評価してください。 (1:そう思う 2: ややそう思う 3:どちらともいえない 4:あまりそう思わない 5:そう思わない)	実施時期				
		2011年度	2010年度	2011年度	2009年度	2010年度
1	教養や知性が身についたと思いますか	3.80	3.62	3.83	3.65	3.80
2	専門的能力(資格取得を含む)が身についたと思いますか	3.68	3.78	3.71	3.61	3.89
3	社会人力(コミュニケーション力、マナーなど)が身についたと思いますか	3.80	3.81	3.60	3.88	3.89
4	人間的にも成長できたと思いますか	3.84	3.81	3.76	3.78	4.01
平均		3.78	3.75	3.73	3.73	3.90
項目番号	あなたは本学での学生生活を総合的に判断して、どれくらい満足していますか。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)	実施時期				
		2011年度	2010年度	2011年度	2009年度	2010年度
1	総合的判断	3.44	3.35	3.62	3.52	3.66

数値は各項目とも平均値。

学科長のコメント (満足度調査の結果と今後の改善について)	
<p>「学生の満足度」 1. 学年、調査年度に関係なく、各項目ともに平均値が3~4の範囲に留まっており、学生の授業に対する満足度は決して高いとは言えない。授業担当者としては、この結果を謙虚に受け止めてその原因究明に努め、少なくとも満足度が4(やや満足)を超えるような授業の実施を目指したい。 2. 項目別にみると、学年、調査年度を問わず最も低いのが4の「人為的環境」である。これは、調査開始以来変わらず傾向であり、満足度を低くする要因の一つとなっている。簡単なことではないが、静かな授業環境を求める真面目な学生の声に応えて頂けるように授業担当者の更なる努力をお願いしたい。</p> <p>「授業への取り組みについての自己評価」 1. 学年、調査年度を問わず、授業への取り組みについての自己評価の平均値は3~4の範囲に留まっており、自身の取り組み姿勢が不十分であるとの自覚が認められる。将来専門職に就く者にとっては、出席、遅刻、授業態度、課題提出、試験などの全ての項目についての自己評価がより向上するよう学生自身の努力は勿論であるが、授業担当者の厳しい姿勢でのご指導をお願いしたい。 2. 項目別にみても、学年、調査年度を問わず3の「授業への集中度」が最も低くなっており、授業に集中出来ず私語や居眠りをしていることを自覚している学生も少なくない。前項で、「授業に対する満足度」が低い要因の一つが「人為的環境」にあることを示唆したが、「学生による自己評価」と「授業に対する満足度」は連動しており、授業に対する満足度を高めるためには、授業内容の見直しだけでなく、学生の授業への取り組み姿勢を向上させるためのより強力で適切な指導が不可欠といえる。</p> <p>「学習成果」 どの調査年度においても、2年間にわたる教育の成果が、平均値で3.7~3.9の範囲に留まっており、決して満足できる結果とはいえない。また保育学科のような目的学科では、1年生から2年生へと段階的に教育成果が表れて来なければならないところ、すべての項目において学年間の差が小さく、2年間の教育成果が顕著に認められない。このような結果をもたらした原因については、教員間でしっかりと話し合う必要がある。</p> <p>「総合的判断」 1年生よりも2年生においてわずかながら満足度が高まっているが、1、2年生の平均値の3.44~3.66は満足できる結果とはいえない。学生の授業への取り組み姿勢向上の指導とともに、授業内容、その他学生生活全般にわたる指導の在り方についての反省と今後の対策についての検討が必要と判断される。</p>	



◆ 2011年度入学生1年次
 ■ 2010年度入学生1年次
 ▲ 2010年度入学生2年次
 × 2009年度入学生1年次
 ◆ 2009年度入学生2年次

- ・2010年度生は#5、7を除いては1年次より2年次の方が向上（#7はカリキュラムの充実度）
- ・2011年度生は2010年度生1年次と比べ、同じ傾向だが、#3（教員とのコミュニケーション）が良く、#7（カリキュラムの充実度）が低い。この#7に対する満足度は2010年度生2年次と同じレベル
- ・2009年度生2年次の満足度水準からは下降傾向

- ・2010年度生は2年次になって#3（授業への集中度）、#5（試験への取り組み）に関して自己評価が上がっている
- ・2011年度生は2010年度生1年次とすべての項目についてほぼ同じ水準
- ・2009年度生が1年次、2年次を通じて2010、2011年度の学生より自己評価が高い

- ・学習成果についての自己評価は左記の授業への満足度、授業への自己の取り組みというカテゴリーに比べて、項目間の差が小さく、総じて評価が高いのが大きな特徴
- ・2010年度生の2年次は、この中で1年次に比べ評価が全般的に低下（#3の社会力が一番評価が低下）
- ・2011年度生は2010年度生の1年次と2年次の

総合的判断

・2010年度生は2009年度生より満足度は低い、1年次に比べ2年次の満足度が向上、一方2011年度生は2010年度生の1年次のときより満足度は向上している

ライフデザイン総合学科 満足度調査結果		2011年度		2010年度		2009年度	
		入学生		入学生		入学生	
		1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次
調査対象者数		59	79	34	88	64	

学科長のコメント (満足度調査の結果と今後の改善について)

項目 番号	本学での授業に関する各項目について、あなたの満足度をお答え下さい。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)	実施時期				
		2011年度	2010年度	2011年度	2009年度	2010年度
1	授業内容のわかりやすさ	3.55	3.11	3.77	3.39	3.41
2	授業の質(短大生として満足できる内容であったか)	3.66	3.22	3.89	3.63	3.47
3	教員とのコミュニケーション(質問への応答、学習や課題への助言など)	3.80	3.25	4.14	3.59	3.52
4	授業の人為的環境(迷惑な授業態度や私語への注意・座席への配慮など)	3.57	3.15	3.83	3.40	3.20
5	授業の物理的環境(教室のサイズ・施設・設備の充実度など)	3.35	2.86	3.26	3.22	3.00
6	将来のキャリア(就職など)計画に対する授業内容の有効性	3.35	3.04	3.17	3.20	2.80
7	教育課程(カリキュラム)の充実度(受講したい授業科目が多く開講されているか)	3.70	3.19	3.57	3.53	3.42
平均		3.57	3.12	3.66	3.42	3.26

1. 授業への満足度について
「教員とのコミュニケーション(質問への応答、学習や課題への助言など)が他の項目より満足度が高い(2009年度入学生の1年次は除く)。続いて「授業の質(短大生として満足できる内容であったか)の満足度が高いことが伺われる。ただし、学年によっては3.5未満(「どちらともいえない」が「やや満足」を上回る)が見られる。この2点の満足度を伸ばすこと、4.0を目標にした。例年のことではあるが、「授業の物理的環境(教室サイズ・施設・設備の充実度)の満足度が低い。教員間でも全体的に暗いことが話題となっている。照明や壁の塗り替えなどが求められる。

項目 番号	本学での授業への取り組みについてあなた自身を自己評価してください。 (1:そう思う 2: ややそう思う 3:どちらともいえない 4:あまりそう思わない 5:そう思わない)	実施時期				
		2011年度	2010年度	2011年度	2009年度	2010年度
1	授業には、よく出席した	3.90	3.95	4.00	3.86	3.84
2	授業には遅刻しないように気をつけた	4.07	4.27	4.34	4.24	4.22
3	授業中は居眠りや私語などせず、授業に集中した	3.80	3.32	3.66	3.33	3.48
4	授業時間外の課題には真剣に取り組んだ	3.83	3.38	3.43	3.56	3.56
5	試験勉強には真剣に取り組んだ	3.72	3.39	3.54	3.41	3.78
平均		3.86	3.66	3.79	3.68	3.78

2. 授業への取組についての自己評価について
学生が「授業には遅刻しないように気をつけた」ことが強く伺われる。これはガイダンスなどで周知徹底したことによることもあるが、学生の努力があると考えられる。「授業によく出席した」こともあと少しで4.0となるので、学生の努力を褒めながらも今後一層の授業出席を呼びかけることにしたい。全体的に平均は3.6を上回っているが、3.5に達していないこともあるのですべての内容で4.0に近づけるようにしたい。

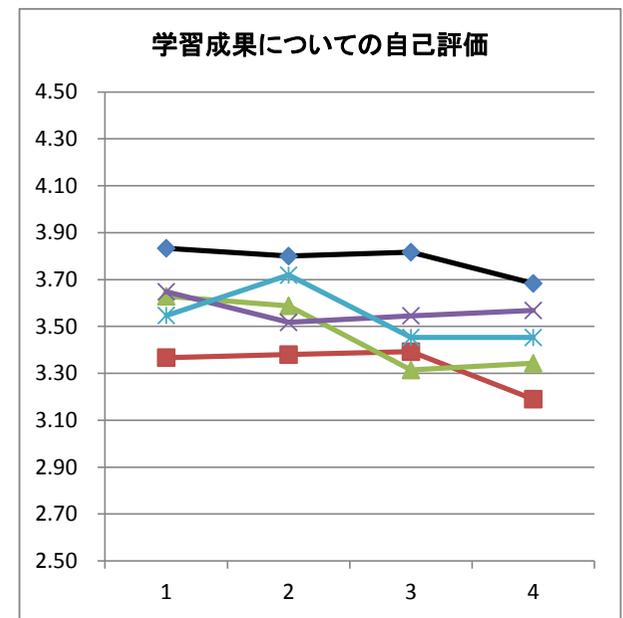
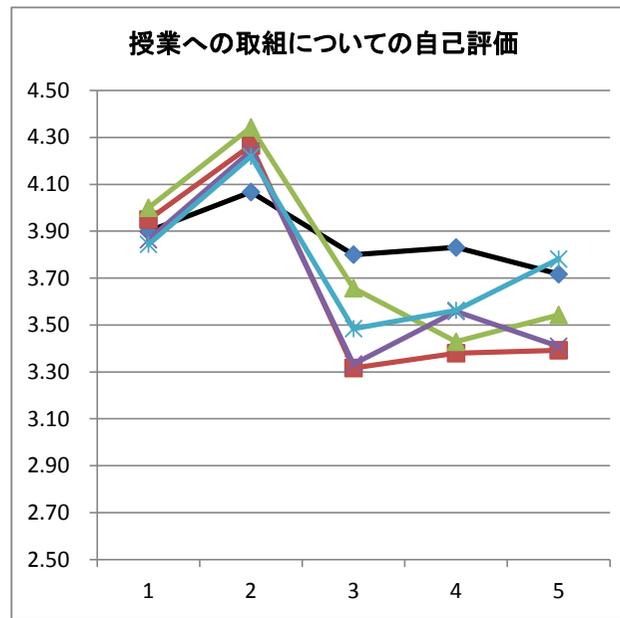
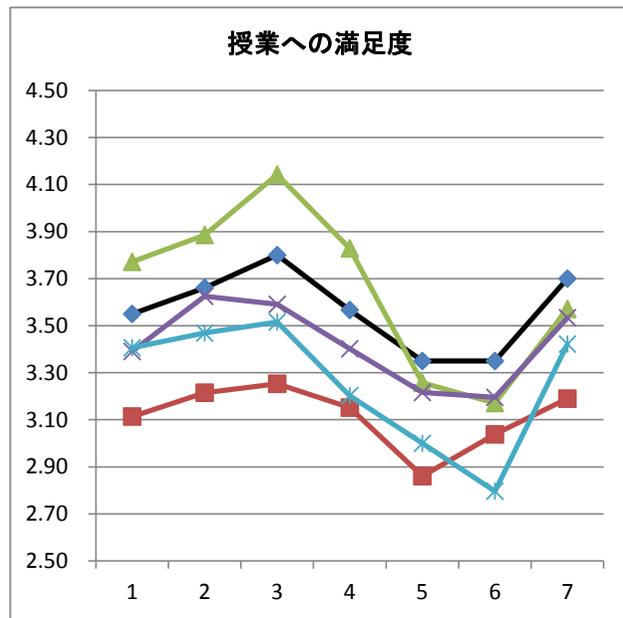
項目 番号	あなたは、本学での2年間でどの程度の学習成果が身についたと思いますか。自己評価してください。 (1:そう思う 2: ややそう思う 3:どちらともいえない 4:あまりそう思わない 5:そう思わない)	実施時期				
		2011年度	2010年度	2011年度	2009年度	2010年度
1	教養や知性が身についたと思いますか	3.83	3.37	3.63	3.65	3.55
2	専門的能力(資格取得を含む)が身についたと思いますか	3.80	3.38	3.59	3.52	3.72
3	社会人力(コミュニケーション力、マナーなど)が身についたと思いますか	3.82	3.39	3.31	3.55	3.45
4	人間的にも成長できたと思いますか	3.68	3.19	3.34	3.57	3.45
平均		3.78	3.33	3.47	3.57	3.54

3. 学習成果についての自己評価について
3.5に達していない箇所がけっこう見られるという意味において全体的に満足度は低く、学生は客観的に評価していることが伺われる。授業への取組が積極的になることで結果的に、学習成果についての自己評価も高まるであろう。今後も授業への積極的な取組(多くの多彩な授業を履修するなど)を学生に伝えていきたい。

項目 番号	あなたは本学での学生生活を総合的に判断して、どれくらい満足していますか。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)	実施時期				
		2011年度	2010年度	2011年度	2009年度	2010年度
1	総合的判断	3.82	3.14	3.63	3.49	3.38

4. 最後に
昨年度の満足度調査結果と比べて、グラフの様子はほぼ同じであるが、値としては少しだが上がっているといえる。2010年度入学生は1年次の時より2年次の時の方がすべての点で満足度が上がっている。“こうでなくては!”と感じている。2011年度入学生の1年次の満足度が他の学年でのそれより高い、彼らの2年次の満足度がどうなるか?楽しみである。

数値は各項目とも平均値。



◆ 2011年度入学生1年次
 ■ 2010年度入学生1年次
 ▲ 2010年度入学生2年次
 × 2009年度入学生1年次
 ◆ 2009年度入学生2年次

- ・2010年度生は1年次に比べ2年次すべての項目について大幅に満足度がアップしたが、特に#1から4について顕著
- ・2011年度生は2010年度生の1年次より満足度がすべての項目についてかなり高く、一方項目ごとの満足度の差は似かよっている
- ・項目別では、#5の物理的環境と#6の将来のキャリア計画に対する有効性の満足度が低い

- ・2010年度生は2年次の自己評価が1年次より向上している（#3, 5で向上、#1, 2, 4はほぼ同じ）
- ・2011年度生は2010年度生1年次の時より、#3(授業への集中度)、#4(課題への取り組み)、#5(試験勉強)について自己評価がかなり高い

- ・2010年度生は2年次になって1年次より#1(教養)、#2(専門的知識)について自己評価が向上したが、#3(社会力)、#4(人間的成長)に関してはやや低い水準にとどまっている
- ・2011年度生は2010年度生1年次と比べどの項目についても圧倒的に自己評価が高く、#3, 4についても評価レベルが高い

総合的判断

- ・2010年度生は2年次になって満足度が大幅に向上しているが、2011年度生は1年次で満足度の水準が、この2010年度生2年次より更に高い
- ・2010年度生のアンケート回答率が2011年度(2年次のとき)は大幅に低下したため、満足度が低い学生がアンケートに参加しなかった可能性もあり、一考を要する

介護福祉学科 満足度調査結果		2011年度 入学生		2010年度 入学生		2009年度 入学生	
		1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次
調査対象者数		18	28	18	15	14	

学科長のコメント
(満足度調査の結果と今後の改善について)

項目 番号	本学での授業に関する各項目について、あなたの満足度をお答え下さい。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)	実施時期				
		2011年度	2010年度	2011年度	2009年度	2010年度
1	授業内容のわかりやすさ	3.39	3.46	3.95	2.64	2.86
2	授業の質(短大生として満足できる内容であったか)	3.67	3.54	3.84	2.80	2.64
3	教員とのコミュニケーション(質問への応答、学習や課題への助言など)	3.61	3.82	3.84	2.67	3.36
4	授業の人為的環境(迷惑な授業態度や私語への注意・座席への配慮など)	3.67	3.11	3.47	2.80	2.86
5	授業の物理的環境(教室のサイズ・施設・設備の充実度など)	3.72	3.79	3.89	3.13	3.14
6	将来のキャリア(就職など)計画に対する授業内容の有効性	3.67	3.61	4.06	2.80	2.86
7	教育課程(カリキュラム)の充実度(受講したい授業科目が多く開講されているか)	3.61	3.71	3.68	2.53	2.86
平均		3.62	3.58	3.82	2.77	2.94

学生の授業に関する満足度に関して、2010年度入学生はすべての項目に対して良好な数値を示し、特に項目1では、約0.5ポイントの上昇がみられている点に関しては、前年度の数値に対する各教員の取組の結果と考える。しかし、32名の在籍者数からみると、18名の回答者数であり50%強となっているため、妥当とは言い難い点もあるのではないかと考える。但し、解答してくれた学生は多くがやや満足のいく授業を受けていたと受け止められる数値であり、教員にとって今後の研鑽に通じるところである。

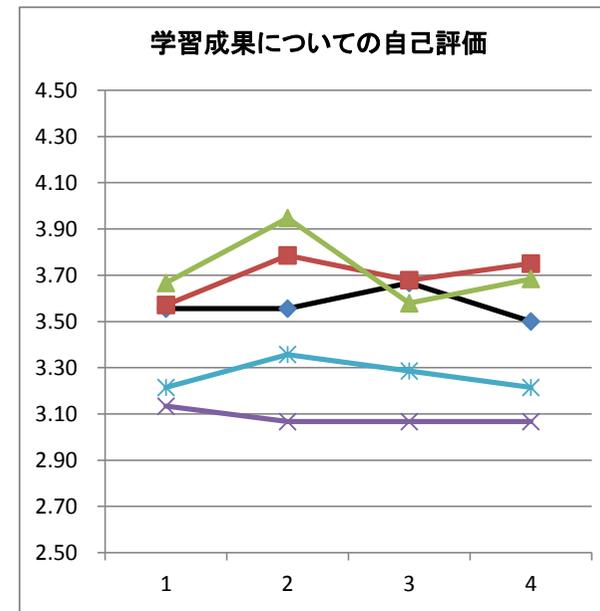
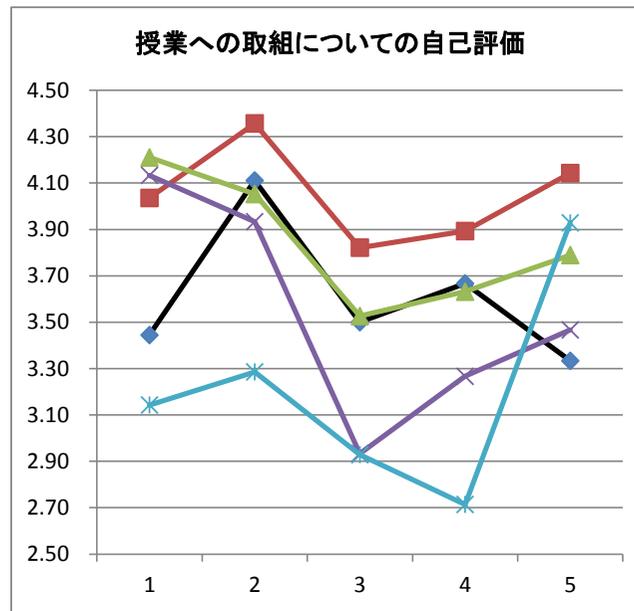
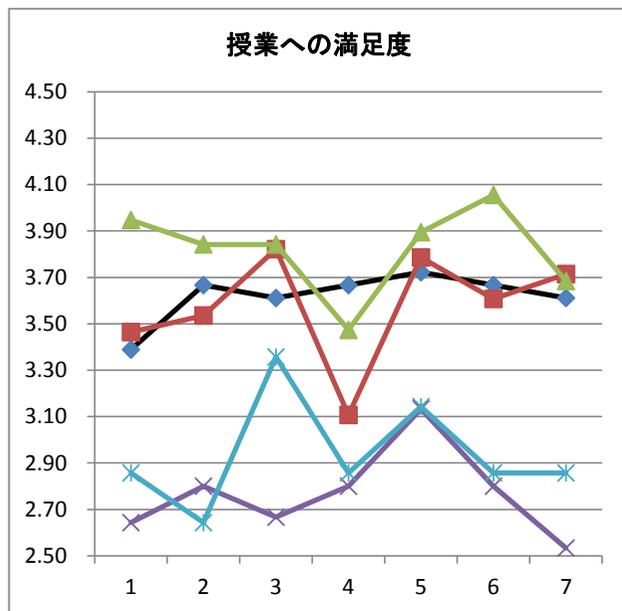
学生自身の授業への取組に関する自己評価と学習成果が、2010年度入学生より2011年度生が低い数値となっているが、学生生活の総合的判断として高い数値となっているため、目的学科としての動機づけを念頭に関わらなければならないと考える。特に、2011年度の入学生から介護福祉士の資格を希求する学生だけとは限らないため、学生の将来への多様性とニーズを念頭に卒業時に社会人としての保障を含めた授業展開が重要となり、教育方針である「個性の尊重」「明朗と自主」「礼儀と品性」等から教育理念である「人をつくる」に結びつけられるような教育を心がけなければと考える。

項目 番号	本学での授業への取り組みについてあなた自身を自己評価してください。 (1:そう思う 2: ややそう思う 3:どちらともいえない 4:あまりそう思わない 5:そう思わない)	実施時期				
		2011年度	2010年度	2011年度	2009年度	2010年度
1	授業には、よく出席した	3.44	4.04	4.21	4.13	3.14
2	授業には遅刻しないように気をつけた	4.11	4.36	4.05	3.93	3.29
3	授業中は居眠りや私語などせず、授業に集中した	3.50	3.82	3.53	2.93	2.93
4	授業時間外の課題には真剣に取り組んだ	3.67	3.89	3.63	3.27	2.71
5	試験勉強には真剣に取り組んだ	3.33	4.14	3.79	3.47	3.93
平均		3.61	4.05	3.84	3.55	3.20

項目 番号	あなたは、本学での2年間でどの程度の学習成果が身についたと思いますか。自己評価してください。 (1:そう思う 2: ややそう思う 3:どちらともいえない 4:あまりそう思わない 5:そう思わない)	実施時期				
		2011年度	2010年度	2011年度	2009年度	2010年度
1	教養や知性が身についたと思いますか	3.56	3.57	3.67	3.13	3.21
2	専門的能力(資格取得を含む)が身についたと思いますか	3.56	3.79	3.95	3.07	3.36
3	社会人力(コミュニケーション力、マナーなど)が身についたと思いますか	3.67	3.68	3.58	3.07	3.29
4	人間的にも成長できたと思いますか	3.50	3.75	3.68	3.07	3.21
平均		3.57	3.70	3.72	3.08	3.27

項目 番号	あなたは本学での学生生活を総合的に判断して、どれくらい満足していますか。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)	実施時期				
		2011年度	2010年度	2011年度	2009年度	2010年度
1	総合的判断	3.89	3.68	3.63	2.53	2.86

数値は各項目とも平均値。



◆ 2011年度入学生1年次
 ■ 2010年度入学生1年次
 ▲ 2010年度入学生2年次
 × 2009年度入学生1年次
 ◆ 2009年度入学生2年次

- ・2010年度生は2年次が1年次に比べほぼ全項目で満足度がかなりアップ、#4(授業の人為的環境)の満足度も向上している
- ・2011年度生は各項目で満足度のばらつきが少ないのが特徴で、2010年度生の1年次と比べ、#4の満足度が高い
- ・2009年度生の満足度から比べると、2010年度生2年次、2011年度生1年次の満足度は大幅に

- ・2010年度生は、このカテゴリーでは基本的に2年次の方が1年次より評価が低下している
- ・2011年度生は#1(授業に良く出席した)がかなり低く、他の項目でも2010年度生の1年次より自己評価が悪い

- ・2010年度生は#3(社会人力)、#4(人間的成長)で1年次より2年次の方が評価が若干下がっている一方、#1(教養)、#2(専門知識)では若干向上している
- ・2011年度生は2010年度生1年次と比べ自己評価の水準は似かよっているが、相対的に若干低い項目(#2、4)がある

総合的判断

- ・2009年度生は2年次になると満足度が向上しているが、2010年度生については若干満足度が低下し、2011年度生は2010年度の1年次より満足度が高い

2011 年度 授業についての満足度調査

©2012 年 5 月

編集	四條畷学園短期大学 FD 委員会
委員長	奥田純
委員	石村哲代 仁平章子 石川肇
	三木大史 鍛冶谷静 北村瑞穂